

会 議 録

会議の名称	令和7年度 養父市公営企業審議会（第1回）
開催日時	令和7年10月10日（金） 午後1時30分～4時30分
開催場所	養父地域局2階 相談室5
委員	9名（うち1名web出席）
事務局	まち整備部：柳川部長、橋本次長 上下水道課：中島課長、松田副課長、安達副課長、片芝副課長、 西村主幹、中村主事

1 開会

2 会長あいさつ

私たち公営企業審議会委員は、市長の意思決定に役立つ情報提供と、市民への説明責任を果たすための情報提供をしないとはいけません。

経営戦略を審査する上で意識してほしい観点として、上下水道料金（使用料）に関して、受益と負担のバランスを考えないとはいけません。少量使用者、多量使用者、事業者等様々な利用者がおられますが、利用者間にも負担の公平性が必要です。今のサービスは持続可能か、将来世代はどのくらい負担できるのか、現役世代・将来世代の負担の公平性も勘案する必要があります。委員の皆様の建設的な意見をお願いします。

3 市長あいさつ

今回の公営企業審議会は前年度の決算報告に加え、水道事業・下水道事業の経営戦略の見直しへの意見も頂戴することになります。経営戦略ですが、各地方公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくために策定する、中長期的な経営の基本計画のことで、全ての公営企業に策定が求められているものです。委員のみなさま方には、市民生活に大きな影響を及ぼす生活インフラのあり方に関わる重要な基本計画となるため、慎重審議をお願いします。

水道料金の改定については、市民生活や養父市のまちづくりへ大きな影響を与える事案だけに、改定の時期や方法など様々な手法を調査研究したうえで判断したいと考えており、今しばらく熟考の期間をいただきたい。

委員の皆様には、様々なお立場・観点から活発な意見交換を行っていただきますようお願いいたします。

4 委員紹介

委員、事務局職員、名簿順に自己紹介

5 議題

(1) 令和6年度下水道事業決算状況報告について

(事務局) 令和6年度下水道事業決算状況報告について説明

(会長) 今後も有収水量は、年1%ぐらいのスピードで減少を見込むのか。

(事務局) 概ねそういう傾向になると予測しています。

(会長) 令和4年度から令和6年度まで、3年連続で赤字になっているが、今後も経常的に赤字になると予測した方が良いのか、何かの要因で回復する余地はあるのか。

(事務局) 下水道には、公共・特環・農集・コミプラなど様々な事業がありますが、コミプラ以外は一般会計からの補填があり、赤字になることはほぼありません。コミプラについてはこのような補填がないため、下水道事業全体で見たとき、コミプラ分が影響し、僅かですが赤字になります。今後もこの傾向は続くと予測しています。

(会長) コミプラに関して基準内繰入(赤字補填)はないが、養父市独自で補助金をもらえないのか。

(事務局) 財政当局と協議・相談は行っています。

(委員) 一般会計補助金について、令和3年度以降の減少が大きいように見えるが要因はなにか。

(事務局) 令和2年度までは減価償却が多く、その補填の補助金が多くありました。

(委員) 養父市の財政も苦しいと聞くが、一般会計補助金について今後もらえるのか。

(事務局) 一般会計から補助金を入れていただく協議は財政当局としており、今後10年間の計画期間中は100%補助金をいただく内容で計画を立てています。

(会長) 関連するので確認したい。下水道については国の指導で分流式処理が進められています。管路を分けるので2倍の費用がかかる、雨水は税金で負担してもらう。汚水は下水道使用料だけでは賄えないので、赤字に関しては総務省の繰出基準に基づいて一般会計から補助というか、繰入金もらえることになっている。この基準内繰入金は、国の方針なので一般会計からの繰入金は必ずもらえるという理解でよいか。

(事務局) 繰出基準内であれば一般会計は国から交付金を受けることとなりますが、100%措置ではありません。養父市の財政も厳しく、永久的に一般会計からの繰入金がもらえるかは不明です。

(副会長) 将来、コミプラに対する補助の方針が変わり、赤字補填費用などを出してもらえるようにならないか。

(事務局) できるようになれば、非常に助かりますが、現時点では見通せません。

(2) 下水道事業経営戦略の見直しについて

(事務局) 下水道事業経営戦略の見直しについて説明

(会長) 特定・個別の一部処理区について、基本使用料が公共・特環等とくらべて安い理由はなにか。

(事務局) 特定・個別は、個人の家などに設置した市の小型合併浄化槽になります。小型合併浄化槽のプロワーの運転には電気が必要となり、個人の方々に電気代を負担していただいています。その電気代を差し引いた額を下水道使用料としており、集合処理区域の方々と料金を区別していません。

(会長) わかりました。今後の収支状況などにより、使用料改定が必要であれば随時改定を行いますとあるが、前回の使用料改定はいつか。

(事務局) 前回の下水道使用料改定は平成 26 年になります。

(委員) 資料 8 ページから 13 ページまでの各事業経営分析で「基準内繰入金を歳入しているから」という説明があったが、類似の自治体は繰入金がないのか。

また、事業分析について、例えば公共下水道事業のここが悪いとか、類似の自治体と比べどこが特に悪いとか、分析は行っているのか。

(会長) 養父市の場合は、赤字を 100%一般会計から繰り入れてもらっているが、他の自治体は 100%繰り入れていない自治体もあると聞いている。

ただ、これだけを理由に経常収支比率を上げているわけではなく、養父市の下水道事業全体の使用料単価は 205.49 円で近隣の自治体に比べると低い方ではない。

事業分析では、公共に関しては有形固定資産減価償却率が類似団体より高い、これは、施設の老朽化が他団体より進んでいることになる。

(事務局) 経営分析表の事業分析につきましては、8 ページから 10 ページの公共・特環・農集については類似の自治体と比較して、基本的には良い方があります。しかしながら、経常収支比率は 100%を超えているが類似の自治体と比べると若干少ない。11 ページから 13 ページの小規模・特定・個別については事業規模が小さく、いずれも累積欠損比率が類似の自治体より悪いため、収支の悪化をできるだけ抑えるよう注意が必要と考えています。

(委員) 5 ページの今後の投資について、施設の長寿命化対策をメインとされた理由を教えてください。また、7 ページの民間活力の活用について、過去の審議会では直営で行う方がコスト削減になると聞いた。人件費の高騰でこうなったのか。

(事務局) 長寿命化対策について、今ある施設をいかに維持していくかに、かなりの費用を投資します。今後は施設の延命、使える状況の維持確保が重要な目的になることから記載しています。

民間活力の活用について、公共・特環事業では令和9年度以降ウォーターPPPに取り組んでいないと管路の更新に対して国庫補助金がいただけなくなります。管路更新時期にウォーターPPPを導入して補助金を得る方が得か、直営が得かなどの判断も必要となります。これらを踏まえての表記です。

(会 長) 長寿命化対策はどの自治体もやっている。耐用年数が10年のものをメンテナンスして15年使えるようにするのが長寿命化だったと思う。

検針業務も直営ですか。

(事務局) 検針はすべて民間に委託しています。

(会 長) 処理場の運転管理についてはどうか。

(事務局) 一部の施設になります。週数回の管理を民間委託しています。管路やマンホールポンプ等の管理については直営で行っています。

(副会長) 特定・個別の合併浄化槽で電気代は個人負担とあったが、検査、汚泥の引き抜き等の負担はどうなっているのか。

(事務局) 検査、汚泥の引き抜き、修理等全ての管理を市が直営で行っています。

(会 長) 他の委員から質問がないようですので、私が事前に質問した事項について説明をお願いします。

(会 長) 2ページでは、「本市の下水道使用料の体系は、基本料金をベースとした従量制を採用しています。」となっているが、「本市の下水道使用料の体系は、基本料金と従量料金の二部制になっています。」と記述すべきではないか。

(事務局) ご指摘のとおり修正いたします。

(会 長) 処理区内の人口予測について、社人研の予測データをそのまま使うべきか。それとも実績値に合わせて令和7年以降の予測値を修正すべきか。水道事業とは違い事業概要欄に下水道事業の処理区域内人口は明記されていないので、追記が必要ではないか。

(事務局) 水道事業経営戦略の人口予測については記入誤りがありましたので水道事業は修正させていただきます。人口予測は社人研の予測データを元にしていこうと考えております。また、処理区内人口の記載については、下水道の経営戦略と水道の経営戦略では様式が少し異なります。水道については給水区域人口を記載するようになっていますが、下水については処理区内人口を記載する欄がありません、よって、記入する必要がないと判断しました。

(会 長) 有収水量の予測は上記の人口予測の修正に合わせて見直すべきではないか。また、有収水量の減少スピードが分かるように、毎年何%の減少を見込んでいるのかも記述したほうが良いのではないか。

(事務局) 有収水量の見込みは人口予測も加味し、過年度実績から算出しています。人口予測も変わらないため数字の変更はなしと考えます。ただし、文言については分かりやすい表現に修正します。減少スピードについては追記するようにいたします。

〈会 長〉 使用料収入の見通しも上記と連動し、見直すべきではないか。また、可能であれば4ページの使用料収入の方向性を早めに明確にし、それに合わせて料金収入の見通しを再検討すべきではないか。

(事務局) 使用料の収入も過去実績から算出しております。人口予測・水需要と完璧に連動する訳でもありませんので、算出している数値で問題ないと考えます。

使用料の方向性について、令和5年度に頂いた使用料見直しでの答申では、令和10年度までの料金改定は必要なしとなっています。このままていくと令和9年度が見直しの時期になるため、令和9年度の公営企業審議会の判断を仰ぎたいと考えています。

〈会 長〉 施設の見通しについては、計画的な更新だけでなく、更新需要の平準化についてどのような工夫を図っているのかを追記する必要があるのではないか。5ページ記載のように今後取り組んでいく内容であれば、その旨を明記すれば良いのではないか。

(事務局) 更新事業の平準化については、6ページの投資の平準化の欄に記載しているので、特にここで記載してはおりません。

〈会 長〉 収納率及び有収率の向上は本来ならば目標数値を設定すべきではないか。

(事務局) 養父市の収納率は実質的に99%程度になります。収納率だけでいうとかなり高いと考えており99.数%まで明記する必要があるか相談させていただきたいと思います。有収率については、天候等で大きく左右されるため明記する必要があるのか、こちらについても相談できればと考えております。

〈会 長〉 6ページの支払利息は、金利の上昇を見込んでいるのか。

(事務局) 支払利息の金利は上昇を見込んで試算しております。

〈会 長〉 18ページの表は業績目標となっている。経常収支比率および経費回収率はK P Iといえるが、その他の項目はK P Iであるのか。それとも単なる試算の結果なのか。一般的にK P Iとして使用されるのは、7ページの進捗管理で使用されている指標ではないのか。

(事務局) 経費回収率と経常収支比率がK P Iの値であり、それ以外は計算の元になります。記入の仕方が誤解を与える表記でしたので適切な書き方などいい方法があればご意見頂戴したいと思います。

〈会 長〉 大変ご丁寧な検討、修正も盛り込んでいただきありがとうございます。

2番目の回答ですが、下水道の経営戦略について国土交通省の雛形は最低限のものであり、もう少し積極的に情報発信していただきたい。

(事務局) 次回までに修正し提出いたします。

〈会 長〉 支払利息に関して、過去投影ケースの名目長期金利を参考にしたとあるが、それが何%なのか数字が分かるように記載していただきたい。

(事務局) こちらも次回までに修正いたします。

(会 長) 5 ページでは、「計画期間中は経常収支比率100%以上の経営基盤を維持する」となっているが、7 ページでは令和 16 年度の経費回収率が 94.9%となっており、さらに 18 ページの表では、令和 13~15 年度の経費回収率も 100%を下回っている。数値目標の整合性を図るべきではないのか。

(事務局) 経常収支比率については、当然黒字を目指す計画が基本となります。経費回収率は、経常収支比率 100%を目指すために向上するという意味合いでロードマップに記載しました。表現が適切でなかったのではないかととも思います。この表現につきましては委員の皆様からご意見いただいて、修正の必要があれば行いたいと思います。

(会 長) 令和 6 年度決算ですが、経費回収率は 87.5%とあるが、ロードマップに記載されている経費回収率が大きく改善されています、費用の大幅な減少などの理由はあるのか。

(事務局) ロードマップは公共・特環のみの分析であるためです。

(会 長) 公共・特環のみの令和 6 年度経費回収率は何%になるのか。

(事務局) 7 ページの表にある 101.9%になります。

(会 長) 公共・特環の令和 6 年度実績 101.9%が令和 7 年度に 92.5%になる経緯、その後令和 11 年まで年々上昇するプロセスの説明をお願いします。

(事務局) 令和 6 年度に公共で大規模工事がありました。起債の利息償還が令和 7 年度から始まったことが影響しています。令和 10 年度から大規模更新工事が始まることで、令和 12 年度あたりから悪くなる見込みです。

(会 長) 大型工事が始まるのは、令和 10 年度からで完了は令和 13 年度でよいか。もし、単年度で終わるなら令和 10 年度から減価償却が始まるので経費回収率は悪くなるはずだが、令和 10 年度、11 年度は逆に若干アップしている。令和 12 年度は少し下がって、13 年度に大きく下がっている。工事関連の影響なら情報提供が欲しい。

(事務局) 長寿命化対策工事の本格着手が令和 10 年度となり、以降は永遠と続く予定です。

(会 長) 令和 10 年度以降、大規模工事がずっと続くとなると、経費回収率 100%を目指すなら使用料改定を考えざるを得ないという理解でよいか。

(事務局) 使用料の改定となるかについては、状況をみながら検討することになります。

(委 員) 経常収支比率について、国が指針とする数値などはあるのか。

(事務局) 国に指標があるのかは分かりません。

(会 長) 指標については、私も知りません。

(委 員) 経費回収率と経常収支比率の関連を数値化してもらえると分かり易いが。

(会 長) 経常収益には使用料収入だけでなく、補助金、新規加入金等も含まれるので、経費回収率が 100%なくても、経常収支比率が 100%に達する可能性は十分あると考えられます。経常収支比率で赤字を出さないだけでなく、将来にわたって事業を維持できるよう資産維持費を使用料単価の算定の中に入れなさいというのが国の指導。将来、更新時に財源がなけれ

ば、起債に頼らざるをえなくなり、支払利息が増え経常収支比率は悪くなる。そう考えると経常収支比率 100%でいいという考え方では不十分でないかと個人的に考えます。国がいう資産維持費を加算して使用料算定すると、経常収支比率はおそらく 110%とか 105%になると思うが、100%で良いと言い切れないところもある。2つの数値の関連について、どの程度が妥当か事務局から意見はあるか。

(事務局) 公共・特環とも、公費負担分として赤字補填があり経常収支比率が 100%を下回ることは考えにくく、経費回収率を 100%にすれば、経常収支比率は公費負担分が減るので 100%を若干超える数字になると考えています。

(委員) 7ページの経営の効率性に関し、汚水処理原価については下がる方が望ましいとあるが表では上がっている。この点問題はないのか。先程から聞いている大型投資の中には、有収水量の率を上げる設備投資もあるのか。

(事務局) 指標設定にあたり出来るだけ上げないことを目標にしました。処理量を増やさなければ苦しくなる一方と考えています。市の施策で人を呼ぶ、企業を呼ぶ、水を使い下水に流す。このようなサイクルが必要であり、統廃合などで施設を縮小すると企業が来た時に対応できず、また造るのかという話になります。まちづくりの計画も念頭に今後の事業を進めていきたいと考えています。

大型投資については、施設の長寿命化対策工事であり直接有収水量を上げるものではありません。

(会長) 確かに上下水道事業だけでなく、街づくりも含めてトータルで考えていただきたい。

(3) 令和6年度水道事業決算状況報告について

(事務局) 令和6年度水道事業決算状況報告について事務局説明

(会長) 2ページ令和5年度と6年度の比較で、給水収益の減少約1%、有収水量の減少 0.58%とある。下水に比べ若干良い状況であるが原因は分析されたのか。おそらく、逡増性をひいているので高い料金を払っている大口使用者の使用水量が減っていない印象があるがいかがか。

(事務局) 詳細な分析を行っておりません。

(会長) もし、分析できると今後の予測に役立つデータが入手できるかもしれないので、お願いしたい。もう一点、4ページで人件費・修繕費・委託料が増えたのは、物価の影響か。一方で動力費が減少した要因はなにか。

(事務局) 人件費や修繕費の増加は物価上昇の影響もあります、委託料については、更新計画の策定があり通年にはない業務の発注が影響をしています。動力費について、見込みよりは減っていますが、前年度と比べると若干金額は増えています。令和4年度はかなり動力費が高騰したので、それを見越した予算を立てていましたが、若干見立てよりは減ったとい

うこととなります。

(委員) 4ページに料金収入が見込みより多かったとあるが、見込みより増えた要因は分析したのか。

(事務局) 決算見込みは予算をベースにしています。予算は安全を考慮し収入は少なく、支出は多めに組んでいます。最終の収入が概ね予測通りになったということになります。

(会長) その他、令和6年度水道事業の決算について、意見や質問はありませんか。無いようですので、令和6年度水道事業決算状況報告についての審議はこれで終了いたします。

6 その他

(事務局) 次回の日程等の説明

7 閉会（副会長）

慎重審議ありがとうございました。ホームページでも確認できますが、平成28年策定の養父市水道ビジョンの中で、人口ビジョンと併せて、利用者ニーズの把握、災害・緊急時対策に関する市民との情報の共有などまちづくりにかかわることも書いてあります。本日の審議も含め、上下水道事業は、非常に地域との関りが深いと改めて感じました。

本日の審議について追加でご意見等あれば事務局に連絡いただくか、次回お持ち寄りいただき、よりよい計画になるようご協力をお願いします。

本日はありがとうございました。